

第4回 森町上下水道事業の料金等審議会議事録

期 日：令和8年6月30日(火) 14時～16時

場 所：森町役場 3階 委員会室

出席者：

- ・委員：佐藤和美、川岸和花子、西田彰、鈴木康之、比奈地敏彦、山本玲子、岡田スミエ、野口正美、鈴木宏明（出席者9名）
- ・町：上下水道課長、課長補佐、上水道管理係長
- ・コンサル：大場上下水道設計(2名)

1 開 会

2 会長挨拶

本日は第4回目、実質的に最後となる審議会となります。これまで私たちは、森町水道事業の健全な持続可能性と、町民の皆様に受け入れていただける水道料金のあり方について検討してまいりました。一定の結論を得ましたので、本日はその内容をまとめた「答申書（案）」の内容について検討してまいります。忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

3 上下水道課長挨拶

皆様の水道料金のおかげで、南部配水池（主に飯田地区への配水）の増設・改築工事がいよいよ着工いたしました。約3年後には完成の予定であり、北部、南部合わせて2か所の配水池の増設により、大規模災害時にも1週間分の非常用給水能力が保てるようになります。

このような大きな事業が行えるのも、皆様の水道料金のおかげであると思っております。今回の料金改定により、事業を未来の子どもたちへ引き継ぐ道筋をつけることが出来たと深く感謝申し上げます。本日は答申案のまとめをよろしくお願いいたします。

4 審 議

(1) 議題1

事務局より「答申書(案)について（資料1）」を説明。

(2) 質疑（答申書案の内容について）

委員

答申書の「経営課題について」の項目ですが、事務局がコスト削減に大変努力していることは十分に伝わります。しかし、改定の理由となる「緊急性」の訴えが少し弱いと感じます。「給水収益が減少する中で～」とさらっと書くのではなく、想定以上の人口減少や、管路更新・耐震化への危機感など、料金改定が不可避となった喫緊の課題をもっと強く訴える文章にした方がよいのではないのでしょうか。

委員

同意見です。答申書を読んだ町民が「水道が止まるような事態になっては大変だ、値上げもやむを得ない」と納得できるような説得力が必要です。「人件費や諸物価の高騰」という

一般的な表現だけでなく、「何十年も前に埋設した管の更新に年間３億円以上かかる」といった具体的な老朽化の事実を盛り込んだ方が、町民に危機感が伝わると思います。

委員

頭の文章を少し組み替えて、水道インフラの重要性と、地震等で配水池等が破損した場合の甚大な影響を強調し、町民一人ひとりに「水道を安定化させることがいかに重要か」が分かるような構成にしていきたいと思います。

委員

企業代表の立場からですが、料金改定の中身は十分理解できました。今皆様がおっしゃった「経営課題の具体化」は、使用者への説得力ある広報に直結すると思います。

また、「改定日（令和９年４月１日）」についてですが、企業にとっては翌年度の経費計画（予算策定）に大きく関わるため、遅くとも１月頃までには周知（案内）がないと困ります。どのタイミングで広報されるのでしょうか。

事務局

広報のタイミングについてお答えします。本審議会から町長への答申後、９月の町議会定例会に条例改正案を提出する予定です。そこで可決（正式決定）されたら、１０月以降から順次、町広報誌、ホームページ、LINEを活用するとともに、現在の全ての使用者様へ直接「郵送」でご案内をお送りする予定です。企業の予算策定にも間に合うよう、丁寧かつ十分な周知期間を設けてまいります。

委員

前回出た「町民皆で水道事業を支えていく」という素晴らしい考え方を前面に出して、理解を得られるよう丁寧な広報をお願いします。

委員

答申書の構成について再度申し上げますが、現状の文章だと、経営課題よりも「自分たち（職員）で経費を抑えて頑張っている」という負担軽減策のアピールが目立ってしまっています。

会長

ご指摘ありがとうございます。水道事業が置かれている苦しい状況や緊急性を、町民の方により分かりやすく伝わるよう、前半の「経営課題」の部分を大幅に書き改めることとします。

事務局

一点ご相談です。答申書に記載した「事務局のコスト削減努力」についてですが、当初載せるべきか迷ったものの、これまでの審議会で「行政側の経費削減努力を町民にもっとアピールすべき」とのご意見をいただいたため記載した経緯があります。この部分については、前半の経営課題からは外し、後半に「付帯意見」や「参考」として記載する形に修正してよろしいでしょうか。

委員

上下水道課が一生懸命やっている努力は、書かないと町民に全く伝わりません。ぜひ残す方向で書き方を工夫してください。

会長

そうですね。事務局の努力が見えることは重要ですので、付帯意見等にまとめることで、前半の危機感（経営課題）と後半の行政努力が整理された良い答申書になると思います。修正後の答申書の最終確認については、恐縮ですが私（会長）にご一任いただけますでしょうか。（委員全員了承）

(3) 議題2 その他

【他市町の水道料金無料化等について】

委員

他市町で水道料金の基本料金を無料にするなどの動きがありましたが、森町では考えていないのでしょうか。

事務局

他市町の無料化は、国からの「地方創生臨時交付金」を活用したトップダウンの施策と聞いております。森町の場合、上水道が整備されているのは主に南部地区であり、北部・山間部では独自の簡易水道や飲料水供給施設を利用されている町民の方も多くいらっしゃいます。そのため、上水道利用者のみの料金を交付金で補助することは「町民間の公平性が保てない」と判断し、実施は見送られております。

【県内市町の水道料金の格差について】

委員

県内でも、河津町のように非常に高いところもあれば、長泉町のように安いところもあります。今後、市町によって水道料金の格差はどんどん広がっていくのでしょうか。

会長

維持管理コストの増大はどこも同じですが、料金格差の最大の要因は「水源の種類」です。長泉町や県東部のように、富士山の伏流水など良質で豊富な地下水を汲み上げて「滅菌処理（塩素）だけ」で配水できる地域は、コストが非常に安く済みます。一方、掛川市などのように、県から水を買わなければならない地域は、どうしても原価が高くなってしまいます。それに加え、森町のように漏水が多く管路更新を急がなければならない状況も、料金引き上げの要因となります。

【上下水道課の職員体制について】

委員

上下水道課の技術職員がわずか3名とのことですが、通常の異動ローテーションなどで専門的な技術が失われたり、職員に過度な負荷がかかったりしないか心配です。

事務局

技術系職員もおおよそ3～5年で異動しますが、現在町全体の技術職員が不足しているため、事務系職員にも技術を習得してもらうなどの工夫も考えられます。業務をすべて外部

委託してしまうと、いざという災害時に対応できる職員がいなくなってしまうため、直営体制をある程度維持しつつ、何とか人材を育てていきたいと考えております。

3 閉 会

会長挨拶

昨年の10月から計4回にわたり、森町水道事業の持続可能性と水道料金のあり方についてご審議いただきました。委員の皆様の「森町の水道を持続させていくんだ」という熱い思いが伝わってくる、大変有意義な審議会でした。また、分かりやすい資料と説明をご準備いただいた事務局の皆様にも感謝申し上げます。これをもって本審議会を終了いたします。

事務局挨拶

皆様には、お忙しい中、この極めて重要かつ困難な課題について真剣にご審議いただき、心より感謝申し上げます。前回の審議会で、委員の皆様お一人おひとりから「皆で水道事業を支えたい」というお言葉をお聞きした際、私は体が震えるほど感動いたしました。皆様のその思いに応えるべく、我々は責任を持ってこの水道事業を守り、次世代へつなげていくことを心に誓いました。今後とも、森町の水道事業を温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。誠にありがとうございました。